

村越一哲作・演出

遠州堀江藩始末

五千石の湖

昭和51年3月5日

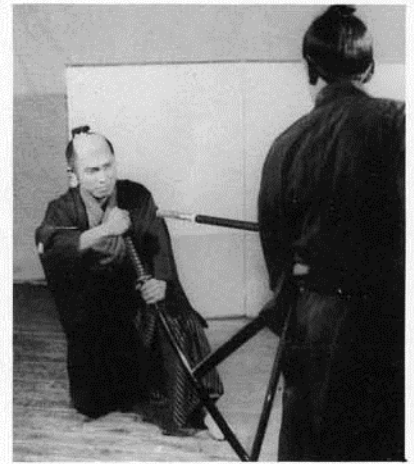
浜松市民会館

上演 浜松放送劇団

後援

静岡県教育委員会・浜松市教育委員会・浜松ユネスコ協会
静岡県演劇連絡協議会・静岡県劇作家協会・浜松演劇観賞協議会

演 出 村 越 一 哲
 舞 台 監 督 野 口 光 一
 装 置 製 図 前 田 勝
 装 置 製 作 大 島 貞 宣
 照 明 浜 松 放 送 劇 団
 衣 裳 布 施 佑 一 郎
 衣 裳 協 力 宮 下 公 平
 か つ ら 小 野 川 芳 恵
 製 作 協 力 劇 団 た ん ぽ ぽ
 鈴 木 か つ ら
 劇 団 か ら っ か ぜ



金 沢 利 勝	（堀江藩主席家老）	岡 本 和 孝
安間又左エ門	（堀江藩国家老）	中 村 昂 平
内 田 真 男	（堀江藩藩士）	石 橋 純 一
了 雲	（真福寺住職）	古 賀 昭 隆
利 右 工 門	（堀江の村人）	牧 野 照 彦
金 平	（ ）	土 方 慎 章
藤 蔵	（ ）	西 脇 庄 治
三 郎 平	（ ）	石 川 二 郎
富 三	（ ）	山 本 洋 子
お 光	（ ）	富 田 多 見 子
お 松	（ ）	鈴 木 康 雄
藤 吉	（村 櫛 の 村 人）	三 井 康 子
お 京	（藤 吉 の 女 房）	青 山 葉 勇
久 作	（お 松 の 父 親）	村 松 幸 男
弥 平	（堀江の村人）	山 下 勝 則
市 太	（ ）	高 崎 美 津 江
お つ る	（ ）	鈴 木 英 男
稲 作	（ ）	堀 田 芳 恵
小 女		小 野 川 葉 子
使 い 番		青 山 久 保 学
溝 端 慎 之 介	（堀江藩士）	大 久 保 龍 太 郎
鈴 本 輝 之 進	（ ）	岩 崎 藤 久 雄
刺 客		加 藤 幸 男
〃		山 下 大 久 保 学
高 侍 官		大 久 保 村 松 勇
猪 作	（堀江の村人）	伊 奈 三 平
文 吉	（ ）	下 村 井 学
喜 一	（ ）	西 井 二 郎
藩 士		山 本 二 郎



〔作者のことは〕

村越一哲

明治維新という激動の時代の中で、人々は政治・社会の変革にとまどいながらも、それぞれの立場で必死になって生き抜こうとしましたが、多少に拘らず影響を蒙り運命を狂わされてさまざまな悲喜劇を起しております。遠州堀江藩もその一つです。

一万石以上の大名を華族にするという政府の方針が決まった為にひどい目に遭う事になります。

重臣達は藩士達の将来を考えに考えた揚句、一万六石と偽りの申告をするのですが私はそういった重臣達の動きを無下に責める訳には参りません。

彼等は木の葉の様な堀江藩を懸命に大波から防ぎ堀江県として誕生させるまでに漕ぎつけたのです。自分達の私利私欲ではなく堀江藩百年の計の為と真剣に考えて彼等なりに最善の努力を払った訳です。私はそこに不況の嵐の吹きすさぶ中で、会社や従業員の為に必死に画策する専務や常務達の姿を見た思いが致します。

その手段・方法はいささか突飛で誤っていたかも知れませんが、そういう様な事件が現実になって、堀江県が「浜松県」に合併され、そして「静岡県」になっていったという過程につきせぬ面白さを感じます。

劇中、堀江藩士又は、お百姓の一部の方の実名を使用させていただきましたが、登場人物の人間関係や行動はあくまでも作家としての私のフィクションである事は御理解を賜りたいと存じます。

なお、資料を提供していただきました若林先生始め皆様へ厚く御礼を申し上げます。

あらすじ

明治政府の実施した廃藩置県は、旧藩主達をあわてさせた。一万石以上の大名は華族と云う名で藩屏に列せられるのである。

堀江藩は砦高三千五百石、実収五千石の小藩であるから勿論華族にはなれるはずがない。……にも拘わらず堀江は立派に県として誕生した。

当時駿府にいた徳川家達は堀江藩が実収一万六石と聞いて驚いたと云う事である。

この不思議な出来事の裏には、とほうもなく大きな賭けが行なわれていたのである。この賭けの為一番苦しめられたのは百姓達であった。助郷だけでもかなり苦しいところへ、今度は突然降って涌いたような浜名湖の埋立工事の夫役ときてはたまったものではない。

年貢は重くなる一方だし、もう背に腹はかえられぬぎりぎりのところに迄追いつめられてしまった彼等は、ついに一撓を企て密かに村はずれの小屋に集まった。

……ところが、この一部始終を隠れて見ていた者がいたのである……。

心に残る 味とサービス……

寿司 三亀松

田所店 電話 (52) 一九〇九
町野店 電話 (72) 二〇八
上入 電話 (47) 二四八
八三六
八三四

＝公演によせて＝

静岡県教育長 宗 知信

この度、浜松放送劇団が、村越一哲氏の台本によって郷土から取材した「五千石の湖」を公演されることに対してお祝い申し上げます。

最近、私たちは、地方にいても中央劇団の舞台を手軽に鑑賞できる機会が多くなったことはまことに喜ばしいことです。

しかし、一方、このことは、地方にある劇団の活動に多少なりとも、影響を与えていることもたしかです。

私は、かねてから中央、地方の文化は両立して発展していかななくてはならないもので、中央の文化とともに、特色ある地域に根ざした地方の文化活動を振興しなくてはならないと考え、行政の面から微力ではありますが、力を注いでいるところです。

静岡県には、全国にも類のない劇作家協会が結成され地元取材した戯曲の創作に励んでおられます。県内の劇団とこれら県内劇作家とが、さらに協力関係を強くして、地元の人々に自分たちの住むそれぞれの地域のことについて、一緒になって考えていく機会を提供するような活動を活発にしていられるよう期待しております。

それが、地方における、地についた文化活動の一つの方向ではないかと思っています。

そのさきがけとして、本公演が成功されますよう期待しお祝いの言葉といたします。

「五千石の湖」公演を祝して

浜松市教育長 相佐明一

浜松放送劇団は、昭和30年に第1回の浜松市芸術祭を開催して以来、その意義を深く理解されまして、積極的に芸術祭をもち立てていただくかわら、数多くの自主公演を行なって、浜松市の演劇文化発展に大きな力を発揮されている優れた劇団であります。

マスコミの庇護もなく、資本の力もない中で、しっかり大地に足をつけて活動していくと云うことは、大変な苦勞が要るものです。

この度は、隠れた郷土史とも云うべき堀江藩の終末を描いた「五千石の湖」を上演なさる事に、心から敬意を表したいと存じます。

例えば、これからもどしどしこの地方の作品を取上げ市民の皆様の前で公演なさる計画とか……地方文化向上を願う立場としてこれに優る喜びはありません。

どうか今後とも、研鑽を積まれなお一層の御活躍をなされますことを期待し御祝いの言葉とします。

推せんのことば

浜松ユネスコ協会会長 菅沼五十一

劇団を運営してゆく難かしきは、人間的なつながりをもつことが第一条件としてあげられますが、良いお芝居を多くの人々に観せるとなると、上演脚本の選定が基本的なことになるでしょう。既成の脚本から一つ選ぶならそれほどむつかしきはありません。

今回の演劇のように、新しい創作劇を上演することになりますと、いろいろな障害をのりこえて完成されるものであります。これは、演出を担当したものでなければその苦勞はわかりません。

村越一哲氏は過去に、既成作品、自らの作品を数多く演出されている地方の第一人者であります。浜松放送劇団もまた、放送劇から出発して、最近では舞台劇に意欲を燃やし、将来を嘱望されている劇団であります。

今度のお芝居が郷土に素材をもった明治維新の堀江藩始末記の「五千石の湖」という創作劇であります。

この劇を推せんする理由は、多くの人々の生活のなぐさめとはげましとなるような良い芝居であるからであります。

一人でも多くの方々の観劇を望んで盛会に終ることを祈ります。

劇団たんぽぽ 主宰 小百合葉子

浜松放送劇団「五千石の湖」公演おめでとうございませう。浜松放送劇団が発足してから、29年の歴史が積上げられたとのこと、その間には、様々なご苦勞もおありでしたでしょう。そのご苦勞を克服されたことによって、その中から、心と心のふれあい、心と心の結ばれを持たれたことの喜びこそ、確かなものであることに頭の下る思いがいたします。

作ることの容易さ、永続することの容易でないこと、それを29年続けられたということは、本当に尊いことだと思います。

村越先生のお言葉のなかに「中央の劇団の真似のできない仕事をやるのが、地方劇団の使命であり、それを

やってこそ始めて存在の価値がある」と申されていますが、まことにそのとおりだと思います。

自分達で創りあげる、その中に新鮮さがあり、それこそが地方文化の本物だと思います。ともすると、文化は中央にのみと錯覚されがちですが、地方にこそ地についたゆるがない文化のあることを自覚したいものです。

村越先生には、私たち劇団も、いつもご指導いたゞいておりますが、浜松に村越先生のような指導者のいられることに力強さをおぼえます。

「五千石の湖」の公演に客席から大きな拍手をおくりたいと念じております。

快挙!! 壮大な郷土史実劇!!

静岡県演連会長 行方薫雄

テレビ、ラジオ、舞台の台本を何十本となく手がけたアマチュア劇団の座付プロ作家が、郷土浜名湖にまつわる史実に基づき、明治維新激動の時代に堀江藩が規定に足りない小藩でありながら、空虚な浜名湖面五千石を取入れて、県として生き残り、華族に列しようと壮大な謀略を企て、農民を苛酷な夫役に追い込んだのに対し、快僧の智謀にバックされて農民が闘かい勝つ壮大な構想、精緻な設定、情感あふれる心理描写、情痴あり、チャンバラあり、しかも正確な史実を経とし、隠れた著作に裏付けされた当時一揆の人間平等論を緯とした名作に絶大な拍手を送る。

心に響く浜松の舞台

静岡県演連・静岡県劇作協事務局長 杉山 正

村越先生の劇作活動については、浜松の皆さんばかりでなく、演劇に関する人ならば、よくご承知のことと思います。

しかし、今回の「五千石の湖」は幕末という歴史の大きな転換期に、それぞれ必死に生き延びようとする者、亡び去る者の葛藤をテーマに、現代にも通ずる政治の非情さ、そして、そうせざるを得ない人間の弱さともいうべき姿を、郷土史に取材した作品だけに、地域に根ざす演劇活動の本道として、深い感銘と示唆を受けています。

さらに、その劇団の長いキャリアーは、それが同時に演技者自身の人間的年輪であり、観る者の心にずっと響く舞台の重みにつながるものでもあります。心からすばらしい舞台の成功をお祈りします。

『五千石の湖』の御成功をお祝い申し上げます。

浜松演劇観賞協議会 会長 沢根信作

ひと冬、寒風に吹きながられてひび割れた牡蠣と海苔の養殖用のたなとくいの枯れがれとした竹が、浅い春の夜明け前の湖の辺に、悲しい音をたてて鳴るのを聞いていますと、『五千石の湖』の利右エ門らの、近づくかに見えて、幾度も遠く希望を、手に握りしめられなかった怨念を、深い耳底にする思いがしてなりません。

夕焼け空を仰ぎながら、『五千石の湖』の会場に足を運ぶ演観協の仲間の女性の姿に、舞台のお光、お京、お松らの群像を重ねさせて、今につながる昔の郷土の人々の生きざまを、観劇後、出演者の皆さまと仲間ともども語り合える機会にめぐまれましたらと思っている次第です。

カウンターに話題のはずむ……

紀珈司
浜松市田町静銀裏通り
TEL 54-1354

株式会社 **中村シート製作所**

浜松市塩町大通り

TEL 52-5924
53-4790

堀江城

宮本七郎

堀江城は、館山寺温泉街の一角、遠鉄遊園地の山頂にあった。

貞治年間、今からおよそ600年前、藤原右近衛中将基秀が築城したものである。のち大沢と改めて、明治4年の廃藩置県まで堀江城主として庄内地方を治め、堀江県知事を最後に、城郭は壊され城主は東京へ移住した。

大沢氏は始め今川氏に属し、のち徳川家康の家臣となったが、その間、遠江駿河方面はもとより遠く清洲城攻め、関ヶ原合戦、大阪の両陣など各地の戦闘に参加して輝かしい武功を立てた。

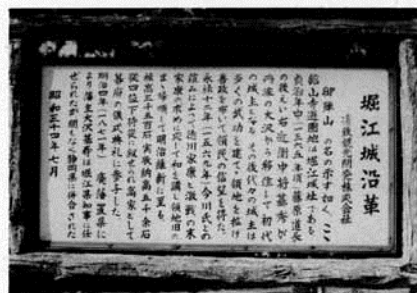
十代目の城主基宿の時、高家に列せられた。高家というのは江戸幕府の職制で、足利氏以来の名門の中から選ばれ、武田・畠山・大友・吉良など26家があり、幕府の儀式や典礼に関することを司さどり、勅使や公家を接待し、伝奏御用、将軍の名代などを務めた。慶応3年10月の大政奉還の際、将軍職および内大臣の辞表を宮中に伝奏したのは大沢基寿であった。

明治政府は、一万石以上の大名には華族の所遇をするという方針を決定したので、五千石、七千石の藩が一万石以上に書きあげて、爵位を得たり栄進の道を与えられた。しかるに堀江藩では国家老安間又左衛門の父新左衛門が、浜名湖を埋立てて一万石にするという計画を立て、すでに村櫛村・和田村・内山村地先で一部の埋立てを行っていた。たまたま徳川家達の知領報告に接して、埋立予定地を含めて一万六石と上申した。それが「万石事件」の発端である。

明治維新は、大化の改新・鎌倉幕府の創設とともに政治史上三大変革といわれる大きな変革であっただけに、各地でさまざまな問題を起した。

この「五千石の湖」もそうしたなかの一つであり、庄内地方の当時の生活状況を知る上で貴重な資料となる。

(郷土史家)



皆様の憩いの場所として
親しまれて20年
只今創立20周年記念サービス
セールスを実施しております。

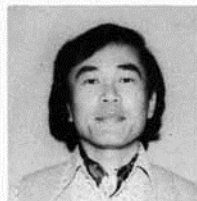
総合予約センター 浜松市館山寺町1965 TEL(05352)7-0311

劇団プロフィール



石川 庄治

真面目人間である。やさしい庄チャンであり物静かな好青年。年令不詳の工務所勤務。



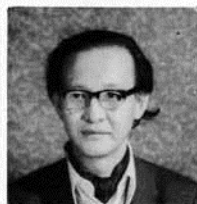
石橋 純一

一見やさ男だが、その実は世界を股にかける男である。独身生活も今日まで28年目。絶対!!今年こそは子供を作るぞ!!?……。



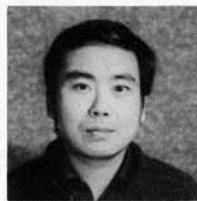
大久保 学

無類の料理通であり酒通。無類の演劇通でもある。今回は遠路福井よりの出張出演。



岡本 和孝

昭和26年入団の大ベテラン。劇団員の総大将であり、その抱擁力の大きさは彼の体軀とは反比例する。English Teacherが本職。



古賀 昭隆

誠実が取得と本人は云うが本当かな。女性にやさしいことは劇団唯一、これで独身なら言うことなし、まもなく二児のパパ。



鈴木 多見子

コンピューターとニラメッコの毎日の近代女性。そろそろお年頃だと云ったのは数年前、現在絶頂期なり。



鈴木 美津江

肉まんのような暖かい女の子。学生時代はスポーツ選手でキャプテン。バイタリターあふれるレディー。



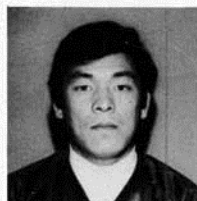
高崎 勝則

劇団一のダンディーとは本人の弁。足の長さも劇団一。本公演の大念仏の太鼓のバチさばきをごろうじろ、と自信満々。



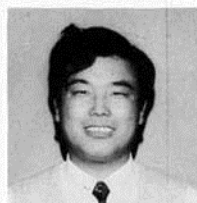
富田 洋子

最近、急にオ色ケが出て来たのである。本人は心当りがないと云うがどうもクサイと云うのが劇団スゞメの好奇的的。



土方 慎

男の中の男、今回の金平の役はズバリ地で行っている感じ。2月29日女兒出産



堀田 英男

芝居が忘れられず名古屋から参上ノ強力なスタミナ源はカツ丼ラーメンから。



青山 葉子

腕立伏せ1回と云うと、ヒョワサを感じるがどうしてどうして、大声で笑い大声で喋べる快活な女性。



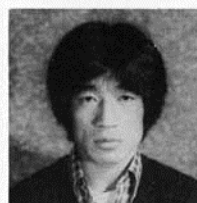
西脇 章

第1級のエンジニア。絵を描かせればこれも第1級。今度は芝居に挑戦、白く「絵筆のようにセリフは滑らかに書きんもんだ」



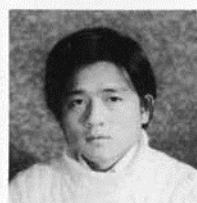
牧野 照彦

ママさんバレーの審判術は浜松でも指折りの人。筆も立つが酒はなかなか断てないという程の酒豪とか。今年も頑張ってます。



山下 幸男

初舞台。セリフを一番早く覚えたエネルギーヤングマン。これから期待される人である。



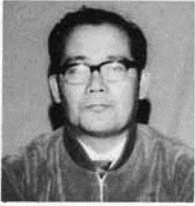
山本 二郎

本名カオルちゃん。人柄の良さもさることながら「数学教師」の資格を持つ勉強家でもある。



小野川芳恵

人間電算機と云われるほど暗算が早い。初舞台で四苦八苦の毎日だが、大器晩成型とは自己の弁。



村松 勇

全身好奇心固り症。何事にも本気で取り組む所は団員のお手本的存在。商業高校教師が本職で生徒の受けも良いという噂。



中村昂平

万年青年も今年で不惑の年令となり、演技にも頼もしさが加味されたともっぱらの評判である。

三井康雄

オーディオマニア。本職のインテリアデザインそっちのけで音のデザインを楽しむ程のマニア、その上甘いマスクと声は魅力的。

大城宏之

江川太郎左衛門で知られる蕪山町の産。現在ドクターを目ざす大学生。小児科医になるのではないかというのが団員の予想。

こんどのカラーは **クイントリックス** 画質・音質・価格—3拍子そろった

デジタル バナナ

18型 TH18-E35

標準価格 **134,800円**

(テレビ台別売・アンテナ及び工事費別)

このバケカラーの消費電力 約 **9円** (1ヶ月分) (1ヶ月あたり) (1ヶ月あたり) (1ヶ月あたり)

1kWh 当り 17円 として計算

劇団のあゆみ

劇団の創立は、市内に未だ焼跡が、あちらこちらに残っている昭和22年ですから足掛け今年で29年の歴史が積み上げられたと云う事になります。

その間、劇団員の出演しました作品（ラジオ・テレビ・舞台・各種公開番組）は無慮千本以上の多きに達します。

舞台公演は昭和25年8月に浜松市公会堂（現児童会館）で、間宮研二作「夜の春雷」、槍双六作「あこがれ」を昼夜2回、入場料30円也で自主公演をしました結果、収支は入場税分だけ赤字と云う記録が残っております。それを皮切りに現在まで数多くの作品を上演し、県芸術祭賞や浜松市芸術祭20周年に際しましての表彰等もいただき此の地方で最も歴史の古い劇団として活躍して参りました。

然し2、3年前から劇団の今後の在り方としては、中央の劇団では真似の出来ない仕事をやっていくべきだ、又それをやる事が地方劇団の使命であり、それをやってこそ始めて存在価値があるのだと云う路線を打出しました。それは郷土の作家が郷土に取材し、それを郷土の劇団が上演し郷土の観客の皆様と一体になって、郷土色豊かな独得な演劇文化を創造していこうと云うものです。

第一弾は48年9月1日に上演されました。村越一哲作「告発」（浜松市民会館）です。遠州地方が舞台ですので館山寺とか植松町とか耳慣れた地名が盛んに出て来てその度に観客の間に親近感が湧き上りました。

第二弾は49年秋浜松の楽器会社を題材にとりました、村越一哲作「冬の雷」（浜松市民会館）他です。

ですから今度の「五千石の湖」は第三弾と云う事に相成ります。又、今迄も放送では「新居の関所」「舞阪の海苔」「遠州大念仏由来」「天竜川の筏」「掛塚灯台」「静岡みかんの輸出始め」「高天神城の戦い」「水野越前」等数多くの作品を採り上げており、資料も或る程度は温存されていますので今后は、こう云った作品を戯曲化し上演致して参りたいものと考えております。

是非共皆様方の暖かい御支援と御協力を賜り「郷土路線」を成功させていただけます様に切に御願ひ申し上げます。

田中澄江作「鉄」一幕、寺山修司作「白夜」一幕、村越一哲作「虚構の城」三幕、福田恆存作「一旅再会」一幕、ヤーリツエフ作「密林地帯」一幕、三島由紀夫作「灯台」一幕、木下順二作「あまんじゃくと瓜子姫」一幕、久保田万太郎作「北風のくれたテーブルかけ」一幕、北城秀司作「麦ふみ」一幕、ヘンリック・イブセン作「民衆の敵」菅原卓訳、劇団だるま・劇団からっかぜ・国鉄浜松工場演劇部合同・村越一哲作「地すべり」劇団だるま・国鉄浜松工場演劇部合同・山本有三作「生命の冠」より村越一哲作「蟹」・ピーター・シェファー作米村晰訳、「ブラック・コメディ」、 「冬の雷」村越二哲作、「告発」村越一哲作、「たつのおとしご」榎原政常作、「ぶす」柴崎卓三作。



稽古余話

- 某月某日 脚本脱稿。「劇作静岡」に掲載、各方面より反響を呼ぶ。朝日新聞取材に来訪。
- 某月某日 「劇団たんぼぼ」道場で立稽古始まる。静岡、サンケイ、中日の各新聞が取材に。各紙にて報道される。
- 某月某日 N君、稽古場に掛込んで来て「金沢利勝の身内の人が取引先に居るよ」という。
又、堀江城の「女中部屋に当る所で寝起きしています」という。館山寺のIさんから手紙が来る。
- 某月某日 館山寺町のM氏が今公演に大いに賛同され、ご支援いたゞくことになり、入場券の発売をお願いする。
- 某月某日 青少年演劇センターで総仕上げの舞台稽古。「劇団からっかぜ」より応援にかけつけてくれる。心強い限りである。
- 3月5日 本番。今公演に当り、衣裳、かつらの調達に御協力いたゞいた、「劇団たんぼぼ」、芳川町在住の鈴木さん、「劇団からっかぜ」の仲間を始め、各方面の皆様より御協力をいたゞき心から感謝し、お礼を申し上げます。

浜松演劇鑑賞協議会1976年例会紹介

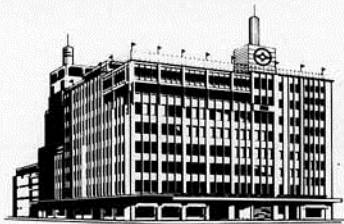
4 月	27 ・ 28 ・ 29 日	民 芸 セールの死	原 作 アーサー・ミラー 出 演 滝 沢 修 細 川 ち か 子 その他
6 月	15 ・ 16 ・ 17 日	俳 優 座 ど ん 底	作 出 演 M・ゴリキー 仲 代 達 矢 佐 藤 オ リ エ その他
7 月	19 ・ 20 ・ 21 日	前 進 座 東 海 道 四 谷 怪 談	作 出 演 鶴 屋 南 北 河 原 崎 国 太 郎 その他

ファッション ストリート



ヤングファッションコーナー
5番街 2F

●ヨーロッパカジュアル
ルイ ドゥ ボンジュール
3F

本当の豊かさ

衣料品をはじめ日用品全般にわたって
カタログ販売を、続けているムトウ。
これからの生活空間はトータルでおそ
るえください。

豊かさを創るファミリーリーダー
株式会社 **ムトウ**

本社 東京都松涛区神町6-72 守330 TEL 0534-64-1111 代テレックス4225-491

コンポーネント
一つ一つが高い評価の単品を集めた
YAMAHA COMPONENT

X1 LINE *Type 1*



X1ラインタイプ1は、エアチェックスタンダードチューナーCT-X1と低歪率プリメインアンプCA-X1を中心に、徹底した防振設計のダイレクトドライブプレーヤーYP-511、白いコーンのストロングウーファと新しいツイータによるパワフルでエネルギッシュなスピーカーNS451の組み合わせ。音、デザイン、操作性のすべてにバランスの良いシステムで、ステージサウンドのダイナミックな迫力を余すところなくリアルに再現します。

プレーヤー	YP-511	¥43,800
チューナー	CT-X1	¥35,000
プリメインアンプ	CA-X1	¥49,500
スピーカー	NS-451	(×2) ¥53,000
合計		¥181,300

別売品

オーディオラック	LC-70	¥19,000
スピーカースタンド	SPS-4	¥3,500
ヘッドホン	HP-2	¥7,000
カセットデッキ	TC-800GL	¥75,000



YAMAHA

日本楽器浜松店
2Fオーディオ売場

浜松市鍛冶町122
TEL (54) 4111